

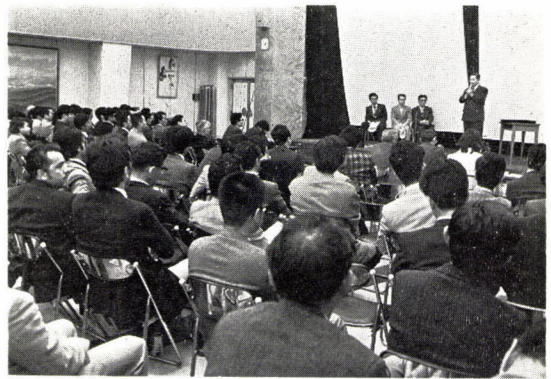
第1回「胃と腸」賞贈呈さる

第1回「胃と腸」賞の贈呈式は11月17日(水)、早期胃癌研究会の例会会場にて行なわれた。本賞は「胃と腸」誌創刊10周年を記念して設けられ毎年「胃と腸」に掲載された論文の中から優秀論文を選び贈呈されることになっている。

入賞論文は五ノ井 哲朗・五十嵐 勤・安斎 幸夫氏 共著「胃潰瘍の瘢痕区域 narbiger Bezirk とその臨床的意義について」(「胃と腸」第10巻2号153~161頁)。

当日は村上忠重先生(東京医歯大)より「胃と腸」賞創設の経過とともに、賞状、賞牌等が贈られ、また市川平三郎先生(国立がんセンター)からは、かつて同じ研究室で仕事をされた先生の御経験をもとに五ノ井先生の人柄、業績をユーモアをまじえ御紹介され贈呈式に花をそえられた。

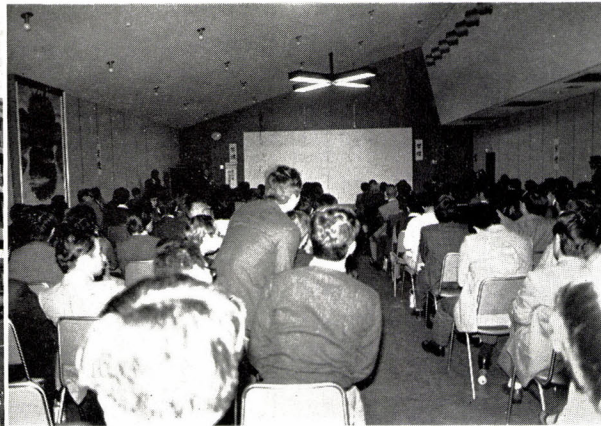
贈呈式(上)と五ノ井・五十嵐・安斎の各先生



■ 盛況を博した「胃と腸」購読の諸先生全国大会 ■

第18回「胃と腸」購読の諸先生全国大会は、消化器合同秋季大会に先立って10月27日午後6時より三重県伊勢市商工会議所にて開催された。会場には約300名が出席、3時間にわたって熱気にあふれる雰囲気包まれ、地元諸先生の熱心さのほどをうかがわせた。今回は、市立伊

勢総合病院消化器センター、渡辺病院、愛知県総合保健センター、市立伊勢総合病院外科から呈示された4症例をめぐってX線、内視鏡、病理の各面から詳細な検討が加えられた。



会場の伊勢市商工会議所(左)と検討風景(右)